

4:1 さて、主にある四人の私はあなたがたに勧めます。あなたがたは、召されたその召しにふさわしく歩みなさい。

4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び、

4:3 平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。

4:4 あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。

4:5 主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです。

4:6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです。

4:7 しかし、私たちは一人ひとり、キリストの賜物の量りにしたがって恵みを与えられました。

4:8 そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」

4:9 「上った」ということは、彼が低い所、つまり地上に降られたということではなくて何でしょうか。

4:10 この降られた方ご自身は、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方でもあります。

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるため

す。

4:13 私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

4:14 こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、

4:15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらであるキリストに向かつて成長するのです。

4:16 キリストによって、からだ全体は、あらゆる節々を支えとして組み合わされ、つなぎ合わされ、それぞれの部分がその分に応じて働くことにより成長して、愛のうちに建てられることになります。

主の囚人とありますが、主がパウロを捕えたとか、主の監獄に入れたということではありません。パウロは自分から進んで、喜んで主に囚われているのです。また囚人のように自分から主の愛の御手の中から出ないで、主のお心を行っているということです。

それが本当に幸いな人生なので、彼はエペソの人々にも、召しにふさわしく歩むようにと勧めています。私たちは良い行いをすべきですが、その動機は何よりも主に召されている、という理解と、召された主を喜ばせたいという、感謝と愛からです。

特に教会を通してクリスチャンは生きますから、御霊の一致が大切なのです。その基本は神は一つという信仰です。その事実です。教会を通して、主の召しを全うしましょう。

一致とは単なる全体主義ではありません。主は私たちにそれぞれ違った賜物を与えてくださったのです。全体主義は主の御心に反することになり

ます。

教会はすばらしいもので、尊重して仕えるべきですが、それは牧師など人に服従するものではありません。牧師のようなリーダーに気に入られるように、全員が同じものになるのではありません。

牧師もキリストの体である教会を建て上げるための一人に過ぎません。また教師も同じです。牧師や教師のようなリーダーは自分に従わせるのではなく、みんなを整えて奉仕へと向かわせるのが、その役割です。整えるということには動機も重要です。イエスを愛する思い、自分から進んでやりたいと思う恵など、聖徒たちが幸いと感じるように、主の愛をたくさんいただくのです。

ですから愛のうちに建てられるのです。従う場合もリードする場合も、主の愛のうちに一致を喜びつつ、成長しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

